

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名： 情報統括センター		部局長名： 阿部匡伸
目 標		目標に対する達成状況（成果）及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
①第4学期に開講する情報処理入門3について、新学習指導要領で学んだ新入生に対応するために、最新の教育内容で授業を実施する。		①最新のハードウェア、ソフトウェア、ネットワークおよびセキュリティの各技術に対応した教材を選定して講義資料と試験問題を刷新し、これらに基づいた授業を実施した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
①本学におけるDX推進のため、人材育成プログラムや業務アプリ開発手法の開発をはじめとした情報統括センター業務に関連する研究を推進する。特に今年度は、生成AIを活用した業務の効率化に関する研究を進め、科研費の申請を目指す。		①生成AIの業務活用基盤として学内オンプレミス型生成AIシステム「いろにかる」を導入し、高機密情報を扱う業務に対して安全な運用環境の検討・整備を進めた。その結果、機密情報を取り扱う際の心理的負担の軽減及び機密情報漏洩リスクの抑制を実現した。一方、大学DXに資するオンプレミス型生成AIの持続的な導入可能性に関する研究として科研費を申請したが、採択には至らなかった。申請分野が適切でなかったと考えている。
③社会貢献（診療を含む）領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献（診療を含む）領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
①公開講座「現代ネット社会を生き抜くための情報セキュリティとリテラシー」を実施することにより地域貢献する。		①8月に公開講座「現代ネット社会を生き抜くための情報セキュリティとリテラシー」を開催し、約30名が受講した。受講者アンケートの結果、満足であったのと回答がほとんどであった。
②大学共同利用機関法人等の委員を務めることにより社会貢献する。		②国立情報学研究所：学術認証運営委員会運用作業部会委員および大学ICT推進協議会：認証基盤部会運営委員を務めた。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
⑤センター・機構等業務に記載		⑤センター・機構等業務に記載
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	
		センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①全学横断的なDX組織体制構築・人材育成 DXによる業務効率化を進める人材を育成するため、ベーシックDX研修、アドバンスDX研修を継続実施するとともに、オンデマンド学習用の動画コンテンツの提供も開始する。動画コンテンツとして、IT基礎知識、業務整理、学内サービスの紹介、Microsoft365活用法などを提供予定。昨年12月に実施したDX勉強会についても継続実施する。	(15-1-1)	①全学横断的なDX組織体制構築・人材育成 業務効率化を目的としたDX推進の一環として、業務標準化及びアプリ開発が可能な職員の育成を目的に「ベーシックDX研修」および「アドバンスDX研修」を継続実施した。今年度の受講者はベーシックが19名、アドバンスが1名であった。ベーシックDX研修受講者は、「在宅勤務申請アプリ」「倉敷ゲストハウス予約アプリ」「通学証明書発行システム」「教職員用事件事故報告システム」の4アプリを試行的に開発した。また、アドバンスDX研修受講者はMicrosoft365を活用して「フロン類使用機器簡易点検業務」を効率化するアプリを構築し、運用を開始した。
②情報セキュリティの強化 令和7年度より3か年で実施されるサイバーセキュリティ対策等基本計画に基づき、サイバーセキュリティの強化および情報セキュリティポリシー関係規程等を見直して改正する。 昨年度情報統括センター内で検証した情報システム運用リスク評価票に基づき、今年度は複数の部局でのリスク評価を実施し、本学の情報システム運用時のリスクを把握・分析する。 また、令和8年度に導入予定の全学業務支援情報システムにてMicrosoft365を活用することから「クラウドサービス利用ガイドライン」を含めた情報セキュリティポリシーにおける手順・ガイドラインの見直しを行い、情報セキュリティに関する積極的な情報発信を行う。	(15-1-2)	DX勉強会の新たな試みとして、7月にMicrosoft 365を活用した業務アプリ開発のハンズオン研修を開催し、83名が参加した。この他、「生成AI勉強会」を計3回開催し、延べ346名が参加した。新たな試みとして、これらの研修や勉強会で使用した動画や資料を情報統括センターのホームページで公開することで、DX化に関心を持つ教職員が自習できる環境を構築した。 試験運用していたローカル生成AI「いろにかる」を全学展開するため、11月19日の生成AI勉強会で学内に周知した。「いろにかる」は学内サーバで稼働しており、機密性の高い情報を取り扱うことが可能であり、試験運用で業務効率化を図れることが明らかとなったため、理事戦略経費(DX・GX理事)によりサーバを増強した。
③DXによる業務効率化 DX推進効果測定として、DX研修受講者等により学内で作成されたアプリにより、どれぐらいの業務効率化となっているかを調査する。調査結果を分析し、今後のDX推進活動に活用する。 生成AIを活用した業務効率化を推進するため、生成AI活用プロジェクトチームを編成する。生成AIガイドラインの改訂、学内設置の生成AIシステムの検証・環境構築を進め、機密性が高いデータも生成AIで処理ができるようにする。DX勉強会においても、生成AIの利活用について情報共有を行う。	(15-1-3)	②情報セキュリティの強化 昨年度に引き続き、学外公開機器に対する脆弱性検査・運用状況調査、情報セキュリティ監査を実施するとともに、今年度は運用リスク評価を複数部局に対して実施し、情報セキュリティの強化を図った。これらの活動から見えた課題として、外部記録媒体廃棄時のデータ消去方法について、従来の物理破壊に代えてソフト的に実施する方法を利用できるように情報セキュリティポリシー(情報セキュリティポリシーガイドライン)を改正した。これにより、より安全でより安価なデータ消去が可能となった。
④情報基盤環境の充実 令和8年8月に更改する全学業務支援情報システムの開札・契約が8月末に行われる。来年度の運用開始に向けて、9月から構築作業を進める。 本調達ではMicrosoft365を有効活用する方針としており、メールシステムが学内設置のサーバからMicrosoft365(クラウド)へ移行するため、クラウドの利用方法やメール移行に伴うデータ整理に関して学内周知を計画的に行う。	(15-1-5)	③DXによる業務効率化 本年度はこれまでのDX施策を評価するDX効果測定プロジェクトを実施した。DX研修の受講者が内製したアプリは合計11本になるが、これらによる令和7年度の業務効率化の効果は、約2,000万円に相当することが明らかとなった。また、ローカル生成AI「いろにかる」による令和7年度の業務効率化効果も約2,000万円に相当することが明らかとなった。 なお、上記に関わるこれまでの投資は、本年度で回収できることも判明した。その他、法人カードやOU OneSearch(ディスカバリーサービス)等では、顕著な効率化が図られた事例が確認された。
		④情報基盤環境の充実 令和8年8月運用開始予定の「全学業務支援情報システム」の構築を進めている。すでに包括契約しているMicrosoft365を基盤に採用し、教職員のスケジュール、データ共有により全教職員の業務効率化とコミュニケーションの円滑化を図る。また、クラウドサービスを利用する一方で、大学の機密情報保護の観点から、学内設置サーバにおいてワークフロー、ファイル配信・収集システム、事務用ファイルサーバを構築するハイブリッド構成とする。システム構成の変更やデータ整理・移行については、部局連絡会において周知するとともに、データ移行の手順書の作成を進めている。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。